

# 2017年度 事業報告

## 1. 事業実施報告

団塊の世代が高齢化時代に入り、介護を受ける人々が増加する半面、提供する側の手は減り、介護業界は慢性的な人手不足に悩まされています。今年度、当事業所も従業員の長期休業や中途退職者が相次ぎ、創設以来はじめて予算を下回る決算となりました。しかし、埼玉県からシニア活躍推進宣言企業として認定され、シニア世代の従業員がこの窮状を乗り切る助けとなりました。

まず、基本の助け合い事業は、遠方に住む家族からの見守りサービスの問い合わせが増えてきました。公的サービスでは対応できない柔軟なサービス（墓参り、通院、買物同行等）も提供しています。

居宅介護支援事業は、介護予防・新総合事業のケアマネの委託を受け、慣れない計画書作成を行いました。この4月からは、介護保険法改正により、埼玉県の指定から富士見市の指定に変更になりましたが、利用者、家族が必要としているサービスが受けられるよう調整をしています。

訪問介護事業は、利用者の入院等により、サービスが大幅に減りました。ヘルパー不足で新規利用者をなかなか受けることができない状態でしたが、緊急のターミナルの依頼やたん吸引の対応については、介護支援専門員・訪問診療・訪問看護等と連携し、少数精鋭で対応しました。

障害福祉サービスについては、利用者の高齢化に加え、長年の利用者が続けて入所する状況となりましたが、入所までの自宅の環境整備、入所準備等に力を注ぎました。

生活サポート事業は、2台のうちの車椅子対応車を他のNPO法人に譲り、軽自動車1台になりました。現在、この1台が朝夕の学校送迎、日中の通院など利用者の要望に応じています。また、徒歩による送迎も行うなど柔軟な対応もおこなっています。

市町村地域支援事業の日中一時支援事業は、1対1での対応を基本とし、手厚い預かりを行い、家族の育児負担の軽減に努めました。残念ながら、諸事情により継続が難しく、惜しまれつつ3月末で閉鎖しました。同事業の中の移動支援事業は、幼児が多いので、安全を優先し、公園レクリエーションを中心にしたサービスを行いました。この事業については、今後も継続して行きます。

養育支援訪問事業は、2年間にわたり富士見市からの依頼は有りませんでした。しかし、2018年度は依頼予定があるとのことで、定款上の事業として残すことになりました。

従業員の研修については、毎月グループワークを中心に、内容が充実しているため飽きることがなく、楽しく知識を身に着けることができました。更に毎年各自の目標を設定することにより、意識改革も図っています。

介護者支援カフェは、108号室を活用していましたが、日中一時支援事業終了に伴い、休止させて頂きました。機会があれば、不定期にでも開催したいと思います。その他、富士見市社会福祉協議会の評議員や「子ども未来応援ネットワーク会議」に出席する等NPOとしての役割を担いました。

「グループみずほ」は1998年創設以来、丸20年を迎えました。主婦5人ではじめた助け合い事業が、従業員各位の福祉に対する真摯な気持ちにより、多くの事業の発展へと繋がりました。今後も身の丈に合った福祉事業の継続を図り、地域社会に必要となる事業体を目指していきます。